

# 国際ガラスデータベースの完成にあたって

国際ガラスデータベース構築委員会委員長  
旭硝子株式会社常務取締役

内野 哲也



(社)ニューガラスフォーラムで、ガラスの組成—物性に関するデータベースを作成する検討が、フォーラムの発足以来なされていましたが、十万件に近い膨大なガラス関連データの収集作業の困難性、情報供与形態の選択、経済性等困難な問題が山積しており、難しそうだと考えていました。

昭和六三年秋の理事会でガラスのデータベースをCD-ROM方式で作る事が決定され、国際ガラスデータベース構築委員会が発足し、会長会社からの実務担当者の派遣等と事が進みました。更に古本会長(当時)からガラスのデータベースを二年間で作るようにと指示されました。

事務局とご相談し平成元年一月に国際ガラスデータベース構築委員会第一回会議を開催、実務を推進する二つのワーキンググループを編成し、この難事業に取り組む事になりました。

データベース構築作業の詳細については他に譲りますがトピックス的には、

- (1)国際ガラスデータベースのニックネームをINTERGLADと命名しました(会長命名)。
- (2)データ収集ワーキンググループで最適なデータ収集項目、単位、略号等の枠組みを決定しました。
- (3)検索システム作成についてはアウトプット関係の専門家と事務局及び製作会社大日本印刷㈱の協力により高機能でカラフルで安定性の良い検索システムを開発できました。
- (4)CD-ROM方式については検索スピードが遅いという危惧がありましたが、システムの工夫によりスピードアップがはかれました。
- (5)会員会社のご協力により予定の期日に完成しました。

この国際ガラスデータベース INTERGLAD 構築の意義はガラスに関する調査・研究の促進にあります。

ガラスに関する関連データを集大成した INTERGLAD の特徴は次の四点にあります。

- (1)書誌情報でなくファクトデータベースで十万件を越す情報が集められていること。
- (2)検索が容易且つスピーディで、データ解析から必要な二次情報が得られること。
- (3)二年毎にバージョンアップすること。
- (4)英語が使われており国際性が高いこと。

従ってガラスメーカー関連研究者の材料開発予備調査、ガラスのユーザーが行う利用材料調査、ガラスにおける先進的会社の情報収集等有効に利用され、国際的にもその価値は大きいと考えます。

## 謝辞

わが国が世界に先駆けて、国際ガラスデータベースを作るよう、強力なバックアップを頂いた通商産業省生活産業局のご指導に、深く感謝の意を表します。

国際ガラスデータベース構築委員会委員として、また検索システム構築面で、指導的役割を果たされた東京大学生産技術研究所安井至教授をはじめ、各委員の方々のご協力に感謝いたします。

データをご提供頂いたまた収録させていただいた関係の方々のご協力に深謝いたします。

また膨大なデータをガラス関連雑誌等から収集していただくという、高度なガラス関連知識と多大な労力を要する作業を、タイムリーに進んで行っていただいた会員各社様に、心から御礼申し上げます。

最後に製作会社大日本印刷株式会社の多大なご協力に厚く御礼申し上げます。